



Don Quijote, Vol.46 montado en un avión

スペイン各地での
エピソード⑨

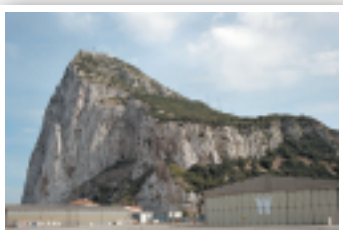
ジブラルタル

～洞窟の中でコンサートも～

清水武 Takeshi Shimizu 旅行作家。
世界文学紀行を定年後のライフワークに作品の舞台を訪ねている。
東京都・昭島市在住
<http://homepage2.nifty.com/donky/>

texto y fotos : Takeshi Shimizu

アフリカ大陸に最も近いスペイン領土、おっといけな、イギリス領土“Gibraltar”。スペイン語では“G”を「ヒ」と発音するので「ヒブラルタル」と呼ばれています。地中海と大西洋を結ぶ海峡は同時にヨーロッパ大陸とアフリカ大陸を結んでいて、世界の海上交通上からも、軍事的な視点からもきわめて重要な地点です。



ジブラルタルの中心となっている岩山



バスでジブラルタルの国境に着くと、

まず出入国の審査から始まりました。正式には、「スペイン領土を出国し、イギリス領土への入国」なのです。といっても、審査のための事務所があるわけではなく、最初にスペイン側の女性審査官が、続いてイギリス側の男性審査官がバスの中まで乗り込んできて、ほとんどの乗客がパスポートを見せるだけの略式審査なのです。バスがイギリス領土内のターミナルに到着すると、一行はマイクロバスに乗り換えました。ガイドを兼ねた運転手は、左手にハンドル、右手にマイクを握り締めて通過地の案内をしていきます。英語、ドイツ語、スペイン語で。さらにフランス語もテープで流しました。この地で旅行業

務に携わる人は、最低3カ国語に通じていなければ仕事にならないようです。

ジブラルタルは高さ425mの岩山を中心に、幅800m、長さ1600mの半島からなっています。バスは途中でサンミゲール洞窟という鍾乳洞の入り口で止まりました。中に入ると予想外に深く大きいのです。ガイドブックには面白いエピソードが紹介されていました。

「この洞窟には底がない。地下のトンネルでアフリカ大陸とつながっているとも言われる。でもそれはあまり信用できないが…」「1840年、2人の兵士が洞窟に入っていったが帰ってこなかった。総力を挙げて捜索したが、2人の遺骸も形跡も見つからなかった。ここから人々は、洞窟には底がない、と信ずるようになった」第二次世界大戦の間、洞窟は救急病院として使用されるように準備されたが、使われるまでには至らなかった」今日、洞窟はそのすばらしい音響効果から、オーケストラの演奏会やコンサートに時々使われている」

自分がいる洞窟の足下から10mほど上方には、数え切れない数の氷柱に似た鍾乳石が垂れ下がり、下からは数メートルほどの石筍(せきじゅん)が伸びていて、それが人工の照明に照らされて、きわめて幻想的な光景を生み出しています。なるほど、洞窟のほぼ真ん中には、コンサート用の舞台と、100人あまりを収容する観客席ができていました。下界から一切遮断された、しかも大変な凹凸と深みがある会場のコンサートとはどんなものになるのか、一度ぜひ鑑賞してみたいものです。ここから約100キロあまり東には、世界最大規模のネルハの洞窟もあります。地中海岸一帯が、洞窟が得意やすい地層になっているのかもしれない。

人口約3万のジブラルタル。正式な通貨はイギリスのポンドですが、ユーロも使えます。フェニキア人の時代からローマ帝国、サラセン帝国、スペイン帝国、そして大英帝国へ。ジブラルタル海峡は歴史の興亡を映してきました。そして現在も、スペインとイギリスの間で、領土の返還交渉が続いています。面積はたった6平方キロですが、「要衝の地」なるがゆえに、いつまでも政治、軍事面で重みがあるからなのでしょう。



ジブラルタル海峡の向こうに見えるのはアフリカ大陸